

狹井社一座略○中 羽二翼略○下

〔日本書紀十四〕七年八月官者吉備弓削部虛空越急歸家略○中 虛空被召來言前津屋略○中 以小雄鷄

呼爲天皇鷄拔毛剪翼

〔萬葉集九〕見武藏小埼沼鴨作歌一首

前玉之小埼乃沼爾鴨曾翼ハネ已尾爾零置流霜乎掃等爾有斯

〔萬葉集十二〕相聞往來歌〔寄物陳思

蓬邊往鴨之羽音之聲耳聞管本名戀渡鴨

〔萬葉集十九〕見飛翻翔鳴作歌一首

春儲而物悲爾三更而羽振鳴志藝誰田爾加須牟

〔古今和歌集三〕題しらす

さつきまつ山時鳥うちはぶきいまもなかなんこそぞのふるこゑ

よみ人しらす

〔古今和歌集四〕題しらす

白雲にはねうちかはしとぶ鴈のかすさへみゆる秋の夜の月

讀人まらす

〔古今和歌六帖六〕ひな鳥

雛鳥の風きりよわみとばれねばすごもりながらねをのみぞなく

業平

〔木工權頭爲忠朝臣家百首雜〕鬪鷄

木工權頭爲忠

春雨にみのげあらしてねる鳥のふせごをかさにきてかへる哉

〔傍廂後篇〕鳥羽變文

師翁の云く大鷲も小わしも羽に變文あり切文爪黒爪白中白中黒本白本黒雪白黒津羽護田鳥  
文俗にいふべし尼面などは定りたる變文なり云々常になき變文たま〜出來る事あり予が家